第 1 回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会
（ 概 要 ）

先般開催した、令和 3 年度 第 1 回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和 3 年 6 月 23 日（水） 14 時 00 分～16 時 00 分

2. 会場

北海道第二水産ビル 8 階 8BC 会議室

3. 検討結果

原木在庫は工場により差があるものの、旺盛な需要が見られる羽柄材に加え、梱包・パレット・桟木が回復してきたことにより、原木確保に苦慮している状況があるなど不足感は増している。

国有林材については、供給調整は必要ないものの需給状況を注視しつつ、可能な範囲で木材を市場に供給していくとの結論となった。

具体的には、「立木販売の前倒し」「生産した素材の可能な限りの早期販売」を行っていくこととする。

4. 主な意見等

〇現在、民有林の作業は伐採よりも下刈が主流のため、原木が不足している。森林組合関係の製材工場は、新型コロナの影響で製品需要が落ち込んだことにより、在庫量を減少させてきたが、需要の回復に原木在庫が追いついていない。在庫量は、0.5 ヶ月～2 ヶ月分の状況。

〇プレカットの受注が順調だが、羽柄材・合板材の在庫が少なく、挽いた量がほとんどそのまま出荷されるような状況。今後、在庫不足の影響で住宅着工できないケースも出てくるのではないか。

乾燥材の生産量には限界があり、現状ではフル生産しても需要に供給が追いつかない。

今後、道産材へシフトする動きがでてくることが予想されることからも、原木の供給量は増やして欲しい。

〇各事業体は、国有林の素材生産を主に実行している。丸太の価格は、少し上がっているところもあるが、概ねコロナ前に戻ったとの声がある。

原木供給量を増加させるためには、人手の確保、重機購入等が必要であるが、需要がこのまま継続し、事業量の確保に繋がるかは不透明であり、現状では素材生産の増量は難しい。現在の木材需要が一過性のものでなく、将来的に担い手の確保等に結びつくことを期待したい。

〇移出合板材について、各社丸太の在庫は適正量を確保できており、生産はほぼフル稼働している。梱包・パレット関係はカラマツが不足している分、トドマツも使用してきているが、在庫は不足している。

不足しているカラマツ・スギ材の代替材としてトドマツの需要が出始めている。

プレカット工場は、輸入製材が 9 月分までは在庫で賄えるが 10 月以降は確保が難しい。

ヨーロッパ・アメリカでは、丸太価格はそこまで上がっていないが、製材品価格がかなり上がっている状況。大手住宅メーカーは、国産材へのシフトが進んでくるのではないかと考えている。
国有林には、原木の潤沢な供給をお願いする。

〇5 月のエゾ・トドマツ原木消費量は、5 年平均との比較で 98%と例年並みに戻っており、原木在荷量は 2 割程度少ない状況。
カラマツ原木消費量は、5 年平均との比較では 86%とコロナ前に戻りきっていないが、今後改善していく見通しであり、原木在荷量は 1 割程度少ない状況。
道有林の取組として、立木販売量を昨年度比 110%とし、上半期中にほぼ全量の出品を予定。事業者に対して、工場側の需要と調整しながら可能な限り早期に伐採・搬出し、市場へ原木を供給するよう働きかけを実施。

〇製紙工場では、予定通り稼働している。新聞紙の生産量がやや増加したが、末木枝条のバイオマス利用が増えた分、製紙原料の量が確保できた。
原料の確保について、木材需要増加に伴ってパルプ原料が他用途にまわり、減少することが懸念。

〇桟木は輸入材の供給減等により、製材品より先に手当てする動きがあり、忙しくなっている。建築材は受注が多いものの原木供給量が追いつかないため、生産調整をしている。在庫量は、6 月になって増えつつあるが、それでも 3～4 週間程度の量しかない。
国産材への期待が高まっているが、信頼を失わないよう丸太・製品の品質を確保することが重要。
原木の供給量は、製品にできる原木を増加させてほしい。

〇昨年、梱包材やパレットの販売量は 3 割ほど減少したが、4～5 月から販売が旺盛になった。現在、残業しつつ注文に対応しているが、旺盛な受注に対応し切れていない。原木が減少し従来の顧客をメインに稼働しているが、それでも 1.5～2 ヶ月先まで注文が入る。
原木供給の見通しを考えると、様々な要因から原料の流通が増えていくことは難しいため、会社として方向転換し、今の販売量を基本に体制を整備していく。
国産材需要回復のチャンスだったかもしれないが、現状の流通量で外材からシェアを獲得することが重要ではないかと考える。
国有林材については、民有林のカラマツの出材に影響がでないように出材して欲しい。

〇バイオマス発電の原木在庫は、一昨年度末 3 ヶ月分まで減ったが、5 月末時点で 10 ヶ月分にまで回復してきた。苫小牧工場の燃料は全体の 4 割がチップであり、4 割のうち 3 割（全体の 3 割）が林地未利用材を使用している。
白糠のバイオマス発電では、6 割程度チップ材を使用している。林地未利用材の使用を促してはいるが、対応可能な下請け事業体が少なく、あまり活用できていない。
SPF は建築用材として年間 3 万㎥程度入荷しているが、昨年同時期の 2～3 倍の価格になっている。